

調査部報告

四四

泡沏的航海運界の好況と云ふも、それは海上に於ける各種労働事情を無視しては一片の嘆言に過ぎない。我組合運動は絶えず船内に於ける日常の具體的労働と密接なる有機的關係を保つて健實に進展しつゝあることは、正確にして且豊富なる資料によること多大である。

此の意味に於て毎年六月末現在を以て行はるゝ船内労働調査は極めて貴重なる資料を提供するものである。本年度調査項目は主として年齢、海上實歴、定員、給食料、航海、年度、船舶掃除、汽機掃除、石炭繰、備船、船内荷役、勤続及退職等の各種手當に關するものであつた。

調査表の蒐集せられたるもの約百七十隻、總人員二千七百人に及んでゐるが、之を吾國登録船舶數及人員數に比すれば前者は僅か四分六厘、後者は七分五厘にしか過ぎぬ。然し乍ら、その企業單位に於ては、吾國海運界の有力なる會社の殆ど全部を占めて居り、且つ我國には未だ海上労働事情の完全なる調査機關の設けられざる今日、吾々自身によつてゆがめられざる海上労働事情の一端を窺ひ知ることが、現實に立脚せる本組合運動に貢獻する所多大である。

又本年度大會に於ける決議に基いてディーゼル船機關部員の労働事情に關しその労働時間、機關の種類及同機關の運轉によつて生ずべき特殊ガスの發生と保健等との關係につき、前年度に引續き詳細なる調査を行つた。

併此外に、調査部が各専門部との間に有する有機的機能と全的に果すがために、各支部及幹部に對して數十回に亘つて組合

失業海員救濟事業報告

長期に渉る世界經濟恐慌は、各國をしてその唯一の解決案としてフアツシヨ經濟政策をとらしむるに至つた。現今世界に捲き起りつゝある邦貨封鎖の聲は雄辯にその政策のあらはれであることを物語つてゐる。此の嵐の中に立つて邦貨と邦船は世界の市場から市場へ、港から港へと活躍を續けつゝ、昨年度は稀に見る海運の好況に伴ふ多數の海員を要求した。

然りと雖他面船質改善による犠牲的海員の輩出を見るのやむなきに至つた事も又これを閑暇する事は出来ない。これに對し組合は邦家産業隆興の大精神に即し寧ろ覺悟の前の事實として之等失業海員の救濟に善處した。即ち昨年度に於て全國七ヶ所の授産所に於て收容した失業海員の延人員は一四七、七九五人に達し昭和六、七年に比していさゝかその率を減少したとは云へ組合の拂つた努力犠牲は世界に於ける凡ゆる労働組合の絶巔驚異的であつた。

而して組合が過去四ヶ年間に於て多大の犠牲を拂つた前記授産事業は本年三月卅一日を以て之を打切り閉鎖したが、四圍の狀勢に即して更に組合は主務省に計り以て失業船員救濟のために、財團法人日本海員會館の經營の下に四月一日以降共濟部を創設擴大し、本部及全國十二ヶ所の支部出張所に於て失業船員救濟事務を取扱ふこととした。

附 日本労働組合會議報告

本組合と全國的労働運動との關係は、海運業が一般産業に對して依存的かつ觸手的の牽聯關係にある事を考ふるとき、極めて重大であり、海上労働運動のみが分離獨立して存在する事が到底不可能である事を自證して居るのである。

この關係は單なる労働組合論的理論に於て肯定さるゝ計りでなく、本組合と日本港灣従業員組合及海員協會との密接なる友誼及協力關係より見ても、又現下の我國労働運動に離伏を強いつゝある非常時情勢に對する方策として考ふるも、全國的聯合

四五